

Ⅰ 全体計画

【学校の教育目標】 英知の風かおり 友愛の情ふかく 精励の志つねに
【校訓】 自律 共生 創造

令和3年度学校経営方針（学習指導に関連したもの）

- ・基礎基本の定着と授業の工夫改善……………授業規律の徹底、多様な学習活動、ニューノーマルの学習の実現
- ・年間指導計画の確実な実施と適切な評価…「ねらいの視覚化」「主体的な活動」「振り返りの時間」の実践、適正で信頼される評価
- ・家庭学習習慣の定着……………学習課題の計画的提供、「家庭学習の手引き」の活用、タブレット端末の活用、組織的実践
- ・学習教室の実施……………個に応じた放課後学習教室の充実、定期考査前及び長期休業中の学習教室
- ・読書活動の推進……………全校朝読書の徹底と読書活動の充実、学校図書館の有効活用

本校の捉える「確かな学力」

- 各教科における基礎的・基本的な知識や技能の定着
- 基礎的・基本的な知識や技能を活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力（特にコミュニケーション能力）の育成
- 主体的に授業・家庭学習・読書に取り組む態度の育成

令和3年度の指導の重点

<各教科>

カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえた授業改善を行うと共に、ニューノーマルの学習モデルの実現による生徒の学習意欲の向上や学習習慣の確立を目指す。

<特別の教科 道徳>

「考え、議論する道徳」の授業を通して、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うと共に、学習を通じた生徒の成長を適切に評価する。

<特別活動>

学級活動や生徒会活動、宿泊学習等を含めた学校行事を通して、望ましい人間関係を築かせると共に、自主的・実践的な合意形成の力を育成する。

<総合的な学習の時間>

SDGsの視点を取り入れた探究学習や課題解決学習を軸に、自ら課題を設定する力、情報を収集・選択する力、よりよく課題を解決する力を育成する。

<生活指導>

将来の社会の形成者として、基本的生活習慣の確立、集団内の役割や責任の自覚、規範意識を高める態度、いじめを許さない態度の育成を図る。

<進路指導>

キャリア・パスポート等の活用を通して、人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力の育成を図る。

授業改善の視点

指導内容・指導方法の工夫

- ・少人数指導や習熟度別指導の充実
- ・ICT(タブレット端末)、UDLの効果的な活用
- ・放課後学習教室の充実
- ・学生ボランティア等による学習支援

教育課程編成上の工夫

- ・二学期制による授業時数の確保
- ・朝の読書活動
- ・定期的な面談
- ・感染症防止対策を踏まえた年間指導計画の見直し

評価の工夫

- ・確かな学力の共通理解
- ・評価基準の見直し
- ・個人内評価やパフォーマンス評価など、多様な評価の工夫

校内研究・研修の工夫

- ・道徳科授業の工夫改善
- ・ニューノーマルの学習の充実
- ・生徒理解を踏まえた学級・学年経営の充実
- ・キャリア教育の推進

小学校との連携

- ・オープンキャンパスの開催方法の工夫改善
- ・職場体験における連携
- ・効果的な乗り入れ授業の実施

家庭・地域との連携

- ・地域行事におけるボランティア活動の取組
- ・家庭学習の手引きの活用
- ・キャリア教育における地域人材の活用

学力向上に向けた任期付短時間勤務教員の活用

生徒の一人ひとりの学力をのばすために、生徒一人ひとりの学習状況に応じたきめ細やかな指導、基礎学力の定着しない生徒への学習支援、少人数指導、放課後の学習指導や教材作成などを行い、学力向上を目指す。

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

<p>国語科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ●漢字の読み書きと語彙の習得 ●目的と相手を意識した、話す能力・書く能力の育成 ●説明的文章の読解を通じた論理的思考力の育成 ●文学的文章の読解を通じた想像力・発想力の育成 ●複数資料の比較や対話的活動を通じた自分の考えの形成
<p>令和3年度「中野区学力にかかわる調査 国語」の結果より</p> <p>〈1年〉問題別正答率の「話す内容を聞き取る」項目のみ目標値を下回っている。</p> <p>〈2年〉観点別正答率、領域別正答率、問題別正答率のいずれにおいても、全ての項目で目標値を上回っている。</p> <p>〈3年〉観点別正答率、領域別正答率、問題別正答率のいずれにおいても、全ての項目で目標値を上回っている。</p>

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○「文法・語句に関する知識」は目標値に達しているが、区・都の平均値よりも下回っている。 ○文章を読むことはできるが、要点をおさえることができない生徒が多い。会話を聞くときにも、要点をおさえてメモすることができない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文章の読み書きで語彙の意味を理解できていない。また、既習の文法を活用できていない。 ○文章における段落の役割や、接続する言葉の意味を理解していないなど、小学校で学習している内容が定着していない。また、話し合い活動やスピーチを聞く活動に不慣れな様子がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」「書くこと」の授業でも既習の文法事項について確認する学習を取り入れる。特に、「書くこと」の授業では、授業者が添削することに加え、生徒同士での添削の機会を設けることで、文法的な内容を活用する力をつける。 ○短い文章を読み、段落の役割を考える問題に取り組みさせる。発表を含む单元のものは、類似した内容の聞き取り問題を実施する。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ○領域別正答率や観点別正答率において、各項目で目標値より上回っているため、教科の学習内容を概ね理解できていると考えられる。 ○観点別正答率における「言語についての知識・理解・技能」が、他の正答率より低く、課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業内容を理解している生徒は一定数いるが、授業内で積極的に発表したり、他の人と意見交流をする生徒が限られている。 ○漢字の読み書きに苦手意識がある生徒が多い。小学校で学習している漢字を書くことができない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業において自分の意見を持ち、グループ活動で交流する機会を増やす。自分の解釈が想定される問いに取り組みさせ、根拠を明確にしながら話し合いをさせる。説明的文章では、文章と資料の比較をさせながら話し合いをさせる。 ○新出漢字の読み書きに加え、小学校で学習した漢字の読み書きを行う。毎回の授業で読み書きの確認・練習に加え、小テストの回数を増やす。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査における知識・技能の正答率が78%となっており、基礎・基本が定着していることがわかる。 ○定期考査における思考・判断・表現の正答率が62%となっており、活用面に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」において、文章を正確に読み取る力は育っているが、文章の内容をもとにして自分の考えを形成することを苦手とする生徒が見受けられる。 ○「書くこと」において、一文一文を正しく書く力は育っているが、文章全体を見るとテーマから逸れた内容を書く生徒が見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文学的文章を扱う授業では、物語の展開を正確に読み取る学習に加えて、多様な解釈が想定される問いに取り組みさせる。 ○説明的文章を扱う授業では、筆者の主張を正確に読み取る学習を行った後、筆者の主張を相対化するような資料を提示する。 ○文章を推敲させる際に、正しい表現かどうかだけでなく、目的と相手をふまえて妥当な内容かどうかを確かめさせる。

(2) 社会科

社会科の重点

- 基礎的・基本的な知識および技能の習得を重視する。
- 言語活動の充実の観点から、社会的な見方・考え方を養うことを重視する
- 社会参画、様々な伝統や文化、宗教に関する学習などを重視する。
- 持続可能な社会を形成するという観点から、社会的な課題の探究と考えをまとめる学習を行う。

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○授業では積極的に取り組む生徒が多く、発言も活発である。 ○基礎的な知識・理解の定着が図れていない生徒がいる。 ○表現や資料の読み取りに課題を有している生徒が一定数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的な知識・理解の定着が図れていない生徒がいる。 ○社会的事象の原因や理由を思考できる生徒が多いが、資料の読み取りや表現することに課題を有している生徒が一定数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元毎に小テストを行ったり簡単な家庭学習の課題等に取り組ませたりする。 ○思考の過程と結果を記述したり共有したりする時間を設けることで表現力を高める指導を行う。また、発表する活動も行う。また、グラフや表の読み取り活動を繰り返し行う。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ○授業では集中して取り組む生徒が多い。表現力に優れている生徒が多い。 ○社会を学ぶ意義や意味がわからず、意欲が減退している生徒が一定数いる。 ○基礎的な知識・理解の定着ができていない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○社会を学ぶ意欲が減退している生徒がいる。 ○基礎的な知識・理解の定着ができていない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○探究型の授業を実施する。生徒の素朴な疑問を解決すべく、複数の資料や情報を事前に用意し、適切な提示を行う。解説が必要な際には、生徒の身近な物と関連付けて行う。 ○単元毎に小テストを行ったり、簡単な家庭学習の課題等に取り組ませたりする。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○授業ではほとんどの生徒が集中して取り組んでいる。 ○基礎的な知識は定着してきた生徒が多い。 ○古代・中世などを中心に1年時に学習した内容の知識が曖昧な生徒が一定数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○時代を越えたつながり、場所を越えたつながりを見出すことに課題を感じている生徒がいる。 ○基礎的な知識・理解の定着ができていない生徒が少数いる。 ○資料の読み取りや資料から思考することに苦手意識をもつ生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○3分野の関連付けを意識的に行うことで、社会的事象への関心や主体性を高める。 ○振りも返りシートを活用し、学習の見通しをもたせる。 ○定期的な小テストの実施により地理や歴史の基礎基本問題の確認を行い、学習の定着を図る。 ○資料の精選を行い、授業内で資料を活用し考え、表現する活動を多く設定することで資料活用の技能を向上させる。

(3) 数学科

数学科の重点

- 「生徒が考える授業」「生徒が主体的に取り組む授業」の実現に向けて指導法の工夫改善を行う。
- 習熟度別指導を活用し、効果的な個別指導を行う。
- 継続的に学習課題を提供し、家庭学習の定着を図る。
- ICTを取り入れた授業から、理解の助けにつなげる。また解答表示をし、時間の効率化を図る。

令和3年度「中野区学力にかかわる調査 数学」の結果より

基礎・活用の正答率においては、目標値よりも上回っていることから、ある程度の力はあると考えられる。しかし、計算の領域では目標値と同程度の達成率であり、正負の数を踏まえて考える他の領域が目標値よりも上回っていることから、ケアレスミスをしやすいことや計算の規則が身に付いていないことが考えられる。よって、図形分野のときにも時折、計算をする機会をつくるようにしていく。

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○授業中の意欲が高く、諦めずに考えようとする生徒が多い。 ○定期考査における計算問題で分数の問題は8割以上の生徒が正解しているが、小数の問題は小数点の位置に関する誤答が多く、苦手意識がある生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○習熟度別クラスの中でも、基礎コースが生徒の学力の差が大きく、個々に対応しないと全く手を動かさない生徒が数名いる。 ○文章問題では、問題を読み解く力がやや不足気味である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○指導員や学生ボランティアにも協力してもらい、きめ細かい机間指導を行う。できるだけ授業内でサポートするようにするが、定期考査前の補習教室も活用する。 ○問題文から読み取った条件を正確に式やグラフで表せるよう、関連性を再度意識させる。また、デジタル教科書などを活用し、視覚的に理解できるような工夫をする。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ○領域別や観点別正答率は目標値より上回っていることから、各単元において概ね理解していると考えられる。 ○正負の数は、昨年度、通常より進度が早く正答率が他の分野より低いことから、定着しきれていないことがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業内での意欲は割と高いのだが、授業ごとに宿題を出す宿題をやってこない生徒が多い。 ○タブレットを活用した授業が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業での学習とテスト前の家庭学習をするようになってきたので、日頃の家庭学習を進めるために、定期的にテストを行い、更に意欲を高めていく。 ○四則演算が定着していない事を改善するために、図形や統計分野のときにも、復習をする機会をつくる。 ○タブレットを使用する課題を模索、生徒が活用する機会をつくる。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○学力調査の結果をみると、領域別正答率、観点別正答率とも目標値より上回っている。 ○データの分布の正答率が目標値に達していない。分析力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業は真面目に取り組む生徒は多いが、主体的に考えたり、質問・発言をしたりする生徒が少ない。 ○授業内では理解できているが、定着しない生徒がいる。 ○タブレットの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の中に、考える時間や、お互いに学び合う機会をつくることで、生徒が主体的に取り組めるようにしていく。 ○学生ボランティアにも協力してもらい、きめ細かい指導を行う。また放課後に質問教室など行う。 ○授業内での理解にとどまらないよう、課題を出し、家庭学習を定着するように指導する。

習熟度別少人数指導の充実に向けて

クラスごとの定着状況や生徒のニーズに合わせた主体的な学びが展開できるように、ICTを活用し理解を深めさせる。また、話し合い活動を通じて、コースに合った深い学びが得られる授業を展開していく。基礎コースでは、少人数かつ任期付短時間勤務教員や支援員をつけ、基礎基本の定着と達成感が得られる授業を目指す。

(4) 理科

理科の重点

- 身近な自然現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な実験、観察の基本的な技能を身に付けるようにする。
- 観察・実験を行い、科学的に探究する力を養う。
- 自然現象、事物に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度を養う。
 - ・「主体的・対話的で深い学び」の実現
 - ・中学校3年間を通しての段階的、計画的な学びと理科で育成を目指す資質、能力の向上
 - 1年：自然現象等に進んで関わり、その中から問題を見出す力
 - 2年：問題を解決する方法を立案し、その結果を分析して解釈する力
 - 3年：探究過程を振り返り、さらに探究していく力

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○身の回りにある動植物や科学的な現象に対して、興味をもち、進んで学ぼうとする力がある一方、自ら仮説を立てたり、論理的な根拠を考えたり、主体的な活動に難しさを感じ、意欲が下がってしまう生徒も一定数いる。 ○知識量が少なく、また深く思考した経験も少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループによる話し合い活動(対話的活動)や実験・観察の実施が難しい中での体験的な学習の進め方の難しさや工夫 ○知識を活用して思考したり、分析したりする経験が乏しく、学習をした知識と知識がどのように関連しているのか、結果からどのようなことが分かるか、など考える力が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近なものやモデルなどを示したり、タブレットPCを活用して実際に体験できない活動を補う。 ○知識習得の際、身のまわりのどの場面と関連しているのか、活用されているのかを授業展開に組み込む。 ○仮説、検証、考察のサイクルの体験を通して、思考する過程を理解するとともに、思考の着眼点を見付けたり、論理的に結論付けたりする力を養う。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に取り組む生徒が多い。実験観察もていねいに取り組める生徒が多い。 ○実験結果から理論的に考察したり、表現したりする力が不足している。 ○仮説、検証、考察のサイクルを積み重ねるなど、探究心が向上してきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループによる話し合い活動(対話的活動)や実験・観察の実施が難しい中で、体験的な学習の進め方の工夫が必要である。 ○知識を使って説明したり、実験から分かることを考察したり、分析したりする力が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近なものやモデルなどを示したり、タブレットPCを活用したりして実際に体験できない活動を補う。 ○実験結果について、個人でまとめたり、考える時間を確保し、それらを共有することで思考力、表現力を向上させる。 ○発展学習として、課題解決学習を取り入れ、分析能力を養う。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に取り組む生徒とそうでない生徒に二分化される。 ○学習内容の理解が表面的なため、その知識を活用して自然現象を説明することが苦手な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループによる話し合い活動(対話的活動)や実験・観察の実施が難しい中での体験的な学習の進め方の難しさや工夫 ○知識を整理し、それを使って、原理を考える力が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近なものやモデルなどを示したり、タブレットPCを活用したりして実際に体験できない活動を補う。 ○学習した知識を使って、考察する活動を取り入れ、表現する力を向上させる。 ○発展学習として、課題解決学習を取り入れ、分析能力を養う。仮説、検証、考察のサイクルを体験することによって、探究心を向上させる。

(5) 音楽科

音楽科の重点

- 発達の段階に応じた音楽活動の基礎的な知識と技能の定着を図る。
- 模範演奏の表現や互いの演奏を聴き、表現の幅を広げる。
- 音楽のよさを知覚し、自分なりの言葉で言い表したり書き表したりできるようにする。
- 音楽に興味・関心をもたせ、主体的に学習に取り組めるようにする。

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○真面目に意欲的に取り組む生徒が多い。 ○感じたこと、思ったことを適切な言葉で表現することが苦手である。 ○コロナ禍において、歌唱に対する意識が低くなり、どのように表現したいか考えることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○正しい発声法が身に付いていない生徒がいる。 ○表現する語彙が不足している。 ○歌唱において、どのように表現したいか考えることが苦手である。 ○読譜の知識が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○合唱の練習を通して、模範となる上級生の声や歌い方を学ぶ機会を作る。 ○表現に必要な語彙、言い表し方の例を提示、使えるようにする。 ○活動の録音、録画による振り返りの時間をもつ。 ○授業で写譜を扱い、楽譜に慣れる。細かな音楽記号の指導を行う。 ○iPadに参考音源をアップし、個人で練習できる環境を作る。 ○振り返りシートを活用する。
	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲をもって取り組む生徒と、消極的な生徒と二極化している。 ○感じたこと、思ったことを適切な言葉で表現することが苦手である。 ○コロナ禍において、歌唱に対する意識が低くなり、声量が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○正しい発声法が身に付いていない生徒がいる。 ○表現する語彙が不足している。 ○読譜の知識が不足している。 ○自ら声を出して表現しようとする生徒が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○合唱の練習を通して、模範となる上級生の声や歌い方を学ぶ機会を作る。 ○参考音源を繰り返し聴き、音楽的な技能を向上させる。 ○読譜に慣れるための発問を増やす。 ○授業で写譜を扱う。 ○iPadに参考音源をアップし、個人で練習できる環境を作る。 ○振り返りシートを活用する。
	<ul style="list-style-type: none"> ○感じたこと、思ったことを適切な言葉で表現することが苦手である。 ○歌唱において、どのように表現したいか考えることが苦手である。 ○コロナ禍において、歌唱に対しての意識が低くなり、消極的な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○正しい発声法が身に付いていない生徒がいる。 ○自分たちの歌唱を聞いて、客観的に批評する力が不足している。 ○「どのように表現したいか」考えることが苦手である。 ○自ら声を出して表現しようとする生徒が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○既習曲を取り入れ、歌いやすい雰囲気を作る。 ○表現に必要な語彙、言い表し方の例を提示し、使えるようにする。 ○模範演奏を鑑賞し、楽曲に適した表現について話し合う。 ○活動の録音、録画による振り返りの時間をもつ。 ○振り返りシートを活用する。 ○iPadに参考音源をアップし、個人で練習できる環境を作る。

(6) 美術科

美術科の重点

- 表現と鑑賞の活動を通して感性を豊かにする。
- 美術の楽しさを体感させる。
- 身に付けた知識・技能と、発想・思考したことを創意工夫して生かしながら、自分らしく表現していく力を伸ばす。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に楽しみながら取り組むが、苦手意識のある生徒が多い。 ○クラスによって進み具合や提出状況の差がある。 ○集中力と作業内容の理解に課題をもつ生徒が少数いる。 ○事前に配布した制作方法の動画を家庭で視聴した人が多くてよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○苦手意識を無くすための指導が必要である。 ○提出率の低いクラスへの指導の工夫が必要である。 ○課題を抱える生徒が理解できるように支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な技法を身に付け、巧拙の大きな差を感じにくい題材を取り扱う。 ○担任にも協力して呼び掛けてもらったり、提出物の回収方法や呼び掛け方を工夫したりする。 ○毎回どこまで理解・作業できたのかTTと協力して確認する。また、生徒同士の教え合いができるように工夫する。
	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に取り組む生徒は多いが、自ら進んで意見や質問をしたり、自己の課題を見付けたりすることができる生徒が少ない。 ○集中し、こだわりをもって制作している。 ○自分の作品に自信をもてなかったり、苦手意識が強かったりする生徒がごく少数であるがいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○技術面・主体性等で個人差が大きく、全体で統一した指導が難しい。 ○ポイントを理解することが足りず、1時間内の作業の見通しを立てるのが甘い。 ○苦手意識が強い生徒は集中力が持続しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○個人差の大きさは、授業内のポイントの理解にも関連していると考えられるため、全体で共通して抱える課題や現状を確認して伝え、本時の目標の理解を深める。 ○具体的に何を1時間内で達成すべきなのか、周りと比較しながら個人目標を立て、さらに教員が把握して計画性が寛容になりすぎないように指導する。 ○諦めるのではなく、少し休憩しつつも自分や近くの席の人の作品を見つめ直してみたり、うまく進んでいる部分を褒め、小さな課題を発見させたりできるよう助言等を工夫する。
	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に創意工夫しているが、様々な技法を学んでいないので技術力と知識が少し足りない。 ○試験勉強や授業に取り組む姿勢がよく、生徒同士で助言しあい意識を高め合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○知識と技術体験が足りないので、工夫や応用の仕方が分からず、生徒自身だけでは想像通りに表現できない。 ○アイデアスケッチに時間がかかったり、発想力が乏しかったりする生徒がいる。iPadで調べた参考作品に頼りがちである。 	<ul style="list-style-type: none"> ○題材の導入部で技法や知識を身に付け、理解などが深められるように工夫する。また、どのような表現を行いたいのか意向を理解し、机間指導で1人1人に合った支援・助言を行う。 ○自分らしい色や個性を出せるように、自己を見つめ発想力を高める授業展開を行う。また、段階的に発想を深めていき、様々なアイデアが思い浮かび、自分の1番表現したいことが発見できるように指導を行う。

(7) 保健体育科

保健体育科の重点

- 運動の楽しさや喜びを味わうとともに運動技能を高める。
- 体力の向上を図り、たくましい心身を育てる。
- 公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たすなどの態度を育てる。
- 健康・安全に留意して運動することができる態度を育てる。
- 令和4年度以降の男女共修授業に向けて、種目や内容に応じて共修授業を取り入れる。

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎体力及び運動経験が不足している。 ○授業規律の確立が課題である。 ○投力・持久力が不足している。 ○自ら運動技能を高めたり、体力を向上させたりする態度が不足している。 ○運動の特性の理解が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動時間を確保する。 ○授業規律の確立。 ○投力・持久力の向上に関わる補助運動の実施。 ○安全、3密に配慮した指導の実施。 ○運動の特性の理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○準備運動を工夫し、基礎体力の向上を図る。 ○教師の指示が伝わるよう視覚的な物を利用し、目標や自分の動きを明確にするためにiPadを活用する。 ○授業において目的をはっきり提示し、達成するための取組を具体化する。 ○自分のことだけでなく、周りの安全面にも配慮できるようにする。 ○特性を理解させるため視覚的な教材を活用する。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎体力及び運動経験が不足している。 ○主体的に学習していく態度が身に付いていない。 ○自ら運動技能を高めたり、体力を向上させたりする態度が身に付いていない。 ○得意生徒と不得意生徒が多くいる単元がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動時間を確保する。 ○主体的に学習していく態度を育成していく。 ○運動・健康に対する興味の習得。 ○安全、3密に配慮した指導。 	<ul style="list-style-type: none"> ○準備運動を充実させ、基礎体力を向上させる。 ○係生徒を中心とした自主的な授業形態を継続する。 ○ワークシート、学習カードを活用する。 ○授業内での個別指導の充実、達成感が得られるようにする。 ○互いに協力し合い、安全に実践するためにグループ学習を進め、教え合い活動を充実させる。 ○目標や自分の動きを明確にするためにiPadを活用する。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎体力は向上してきた。 ○心身の健康に対する関心が不足している。 ○自ら運動技能を高めたり、体力を向上させようという態度に個人差がある。 ○部活動引退後、運動量が減るため、習得に時間を要する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動時間を確保する。 ○心身の健康に関心を高め、生涯にわたってスポーツに親しむための基礎を身に付ける。 ○体を動かすことの楽しさを実感させる。 ○安全、3密に配慮した指導。 	<ul style="list-style-type: none"> ○準備運動を工夫し、基礎体力向上を目指す。 ○係生徒を中心とした自主的な授業形態及びグループによる教えあい形態を確立していく。 ○ワークシート、学習カード、視覚的教材・iPadを活用する。 ○授業内での個別指導で技能を向上させ、達成感を味わわせる。 ○課題解決のため各自が考え、工夫し、さらにグループ学習で互いを高めあえる授業の展開を進める。 ○ゲームを多く取り入れる。

(8) 技術・家庭科

技術・家庭科の重点

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し、創造する資質・能力を育成する。

- 生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに関わる技能を身に付けるようにする。
- 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し表現するなど課題を解決する力を養う。
- よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて生活を工夫し、創造しようとする実践的な態度を養う。

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的な知識、向上心がある。 ○基礎的な技能・意欲がある。 ○生活する上で必要な基本的な技術の経験や体験想像力が不足している。 ○自分の生活に結び付けて学習することが不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的な知識を増やし、定着させる。 ○基礎的な技能を身に付けさせる。学校で出来ない実習の工夫が必要である。 ○生活する上で必要な基本的な技術の経験や向上心や意欲をもてるように、体験の習得の工夫・向上心や意欲をもてるようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教室内で映像を見ながら、必要事項を記入する習慣を身に付けさせる。体験は家庭生活に結びつくようにする。 ○授業の見通しをもたせ、生徒自らが動けるようにする。またグループ学習やサポート学習もしていく。 ○生活の中の知識や技能向上が生活の中に必要であることを話し合わせる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的な知識・向上心がある。 ○基礎的な技能を身に付けようとする力が不足している。 ○生活する上で必要な基本的な技術の経験や体験創造力が不足している。 ○自分の生活に結び付けて学習することが不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的な知識を増やし定着させる。 ○基礎的な技能に関することは自分の生活を想像し、身に付けさせる実習を工夫させる。 ○自分で考え意欲的、能動的に学習し、作業する態度を育成させる。 ○生活する上で必要な基本的な技術の経験や体験の習得の工夫・向上心や意欲をもてるようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教室内で静かに説明を聞き、必要事項を記入する習慣を身に付けさせる。 ○ワークシートを活用し、授業の見通しをもたせ、生徒自らが動けるようにする。 ○自分の生活に必要な物を作ることで生活の楽しさを理解できるようにする。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○落ち着いて授業を受けて向上心はある。 ○基礎的な技能が不足している。 ○主体的に学習する態度や発展して考えることが不十分である。 ○作業に見通しをもって取り組む姿勢がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的な知識を増やし定着させる。 ○基礎的な技能を身に付けさせる実習の工夫が必要である。学校で出来ない事がある。 ○社会の一員として自発的に、作業する態度を育成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○調べ学習の課題をレポートにしたり、発表したりして、思考力を身に付けさせる。 ○ワークシートを活用し、授業の見通しをもたせ、生徒自らが動けるようにする。 ○達成感を得られる、時間内で出来るようアドバイスする。 ○自ら進んで作品を作り周囲の人々との交流をする。

(9) 外国語科

外国語科の重点

- 異文化理解を通じて視野を広める。
- 実践的コミュニケーション能力の育成を図る。
- 協働学習や発表を通して、4技能(聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと)の力を高める。
- 少人数授業による指導の工夫と改善に取り組む。

令和3年度「中野区学力にかかわる調査 外国語」の結果より

〈2年〉観点別正答率、領域別正答率、問題別正答率のいずれにおいても、全ての項目で目標値、全国平均正答率、また区内平均正答率を上回っており、基礎的な学力が定着していると考えられる。

〈3年〉観点別正答率、領域別正答率、問題別正答率のいずれにおいても、全ての項目で目標値を上回っている。

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	○授業では意欲的に取り組む生徒が多く、発言をする生徒も多い。特に相互での学び合う姿勢がよく見られる。	①学習内容の定着度の差がある。特に書字に関しては基礎的な部分からの改善が必要。 ②少人数授業での協働学習の更なる推進。	①-1 毎授業の帯活動でライティングを取り入れ、書く力の底上げを狙う。 ①-2 日々の授業の自己評価シートから、生徒の定着度を毎回チェックし、必要に応じて個別のフォローを行う。また、Google Classroom に授業で使用した資料を公開することで、自宅学習の促進を図る。 ②「教え合い、学び合う」ことを大切に、1人ではなく、複数人で課題解決する場面を提供し、少人数の利点を生かす。
	○小学校での学習内容の定着度に個人差があり、英語に対して苦手意識がある生徒が見受けられる。		
	○学習意欲が高い生徒が多く、文法事項を習得したいという関心が特に高い。		
2年	○一方で、意欲の差も大きく、表現活動に対しては積極的に取り組めない生徒も一定数いる。	①学習内容の定着度合いに大きな開きがあり、その差は広がっていく一方である。英語を苦手とする層の底上げが必要。 ②少人数授業で、自己表現活動をする機会の創出。	①常に新しい活動に取り組むのではなく、帯活動やスパイラルな授業展開の活用により、繰り返し繰り返し、英語に触れ称する機会を増やす。 ②学習した表現を使用し、自己表現をする機会を授業内に必ず設ける。他クラスの生徒と交流を深める中で、さらなる学習意欲の高まりに期待する。
	○意欲的に活動に参加し、特に表現活動を得意とする生徒が多い。ALTの授業やオーセンティックな内容に興味・関心が強い。しかし個人差もあり、書字に関して苦手意識をもっている生徒もいる。		
	○少人数授業では、発表や自己表現をしやすい環境にある。また相互に学ぶ姿勢も多々ある。		
3年	○少人数授業では、発表や自己表現をしやすい環境にある。また相互に学ぶ姿勢も多々ある。	①学習内容の定着に差があり、自己表現の内容の幅や書く力にも個人差が見られる。更なる底上げが必要である。 ②少人数授業の効果的な指導方法と使える英語への指導法の工夫。	①-1 即興性のある対話、Retell の活動機会を増やし、回数を多く重ねることで内容の幅を広げる。また振り返りを行うことで、書く力の向上を目指す ①-2 個々の表現活動への評価カードを活用したきめ細かい指導を行う。 ①-3 基礎基本の確実な定着のために、補習や復習プリント、Google Classroom に PP 教材画面を活用できるように対応する。 ②教材の幅を広げ、学ぶ英語から使う英語、自ら発信する英語への転換を図る。少人数授業の特性を生かし、活動の幅を広げる。
	○意欲的に活動に参加し、特に表現活動を得意とする生徒が多い。ALTの授業やオーセンティックな内容に興味・関心が強い。しかし個人差もあり、書字に関して苦手意識をもっている生徒もいる。		
	○少人数授業では、発表や自己表現をしやすい環境にある。また相互に学ぶ姿勢も多々ある。		

少人数指導の充実(実施校)に向けて

各学年のメインティーチャーを決め、教材、パワーポイントなどを英語科で共有する。教員間の情報交換を密に行い、生徒一人ひとりの学習状況を把握し、指導の工夫・改善を行う。

ALTの活用の工夫

ALTによるスピーキングをモデルとし、生徒のパフォーマンス活動につなげていく。また、ALTによる生徒とのやりとりを数多く設定することでコミュニケーションの機会を増やしている。